

# 大会の「持続可能性(サステナビリティ)」とは？

## 「持続可能性(サステナビリティ)」について

- 「持続可能性(サステナビリティ)」とは、経済社会の発展や自然環境の恩恵の享受をめぐって、将来世代のニーズを損なうことなく、現在の開発ニーズを満たすような発展(開発)のあり方や、その実現の程度を意味します。「持続可能な発展」の概念は、国連の「環境と開発に関する世界委員会」が1987年に公表した最終報告書(いわゆる「ブルントラント報告」)において提唱されました。
- 国際オリンピック委員会(IOC)は、1996年からオリンピック憲章に「持続可能性」の概念を追加しました。特に2010年バンクーバー大会や2012年ロンドン大会から、大会の持続可能性への取り組みが本格化しています。つまり、大会の開催が社会・経済・環境に与える良い影響を最大化し、悪い影響は最小化するというものです。
- オリンピック・パラリンピックのように大規模で影響力のある国際的なイベントで「持続可能性」に取り組むことの波及効果は甚大です。少子高齢化といった我が国の社会経済が抱える課題を乗り越え、環境技術の革新を促して持続可能な社会インフラの再構築を進めていく上での重要な転機となるでしょう。

## ロンドン大会の「持続可能性方針」概要

- ロンドン大会では、大ロンドン市長、ロンドン大会組織委員会、政府、英国オリンピック委員会、英国パラリンピック協会が2006年6月の理事会で「持続可能性方針」の初版を承認しました。
- 「気候変動」「廃棄物」「生物多様性」「インクルージョン<sup>1)</sup>」「健康的な生活」の5つの主要テーマが設定され、大会準備、実施、及び開催後に至るまで具体的な施策が打たれています。
- 2020年東京大会においても、持続可能な大会の開催を実現するためのビジョンを持って施策を推進することで、企業や市民に持続可能性への理解が広まり、2020年の先を見据えた持続可能な社会の構築に向けたポジティブな行動変化が期待されます。

気候変動	•エネルギー、水資源管理、インフラ整備、交通、地元の旬の食材の生産、カーボンインパクトの緩和と適応等の長期的な課題解決に向けたプラットフォームの提供。 •大会開催とレガシー開発に伴うカーボンフットプリントの最小化：特にエネルギー効率、エネルギー需要、低炭素・再生可能エネルギーの利用。
廃棄物	•東ロンドン及び他会場における新たな廃棄物管理インフラ促進と模範的な資源管理の実践。 •発生源における廃棄物の最小化、建設廃棄物や大会開催中の廃棄物の埋立ゼロ、廃棄物の3R(リデュース、リユース、リサイクル)推進による長期的な個人の行動変化の促進。
生物多様性	•Lower Lea Valley地区 <sup>2)</sup> 及び他会場における生態系の増進。 •スポーツセクター全般に対して自然保護へ貢献し人々を自然に近づけることの奨励。
インクルージョン	•アクセシビリティの促進や多様性の許容、Lower Lea Valley地区及びその周辺の地域社会の物理的、経済的、社会的再生によるこれまでで最もインクルーシブな大会運営。
健康的な生活	•国中の人々がスポーツを始め、行動的で健全で持続可能なライフスタイルを作り上げるような意欲をかき立てる。

資料) London 2012 Sustainable Policy, Revised version approved 02 Dec 2009を元に作成

注記 1) 社会格差による社会的弱者を包含し、全ての人が恩恵を受けるようにすることや、そのような環境を創出するための取り組み。社会的包摂。  
2) 東ロンドンに位置するオリンピックパークのある地区。